

第17回日本乳癌学会関東地方会 教育セミナー 治療編

杏林大学医学部 乳腺外科 麻賀 創太

2021.12.4 パシフィコ横浜会議センター

症例 1

60歳代 女性

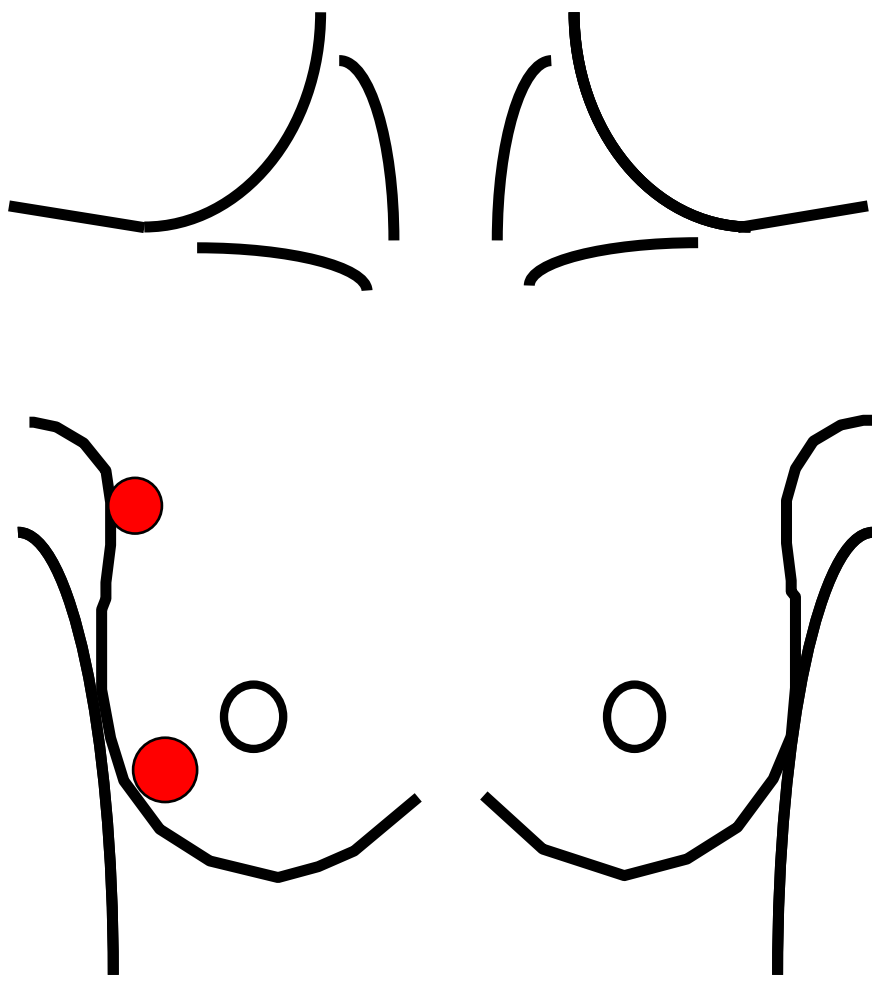
現病歴： 1か月前に右乳房腫瘍を自覚し、前医受診。前医で乳がんを疑われ、
当院へ紹介受診となった。

既往歴： びまん性大細胞型B細胞リンパ腫を10年前に発症し、他院で
R-CHOP療法を8コース実施された。(放射線治療歴なし)

併存疾患： 高血圧

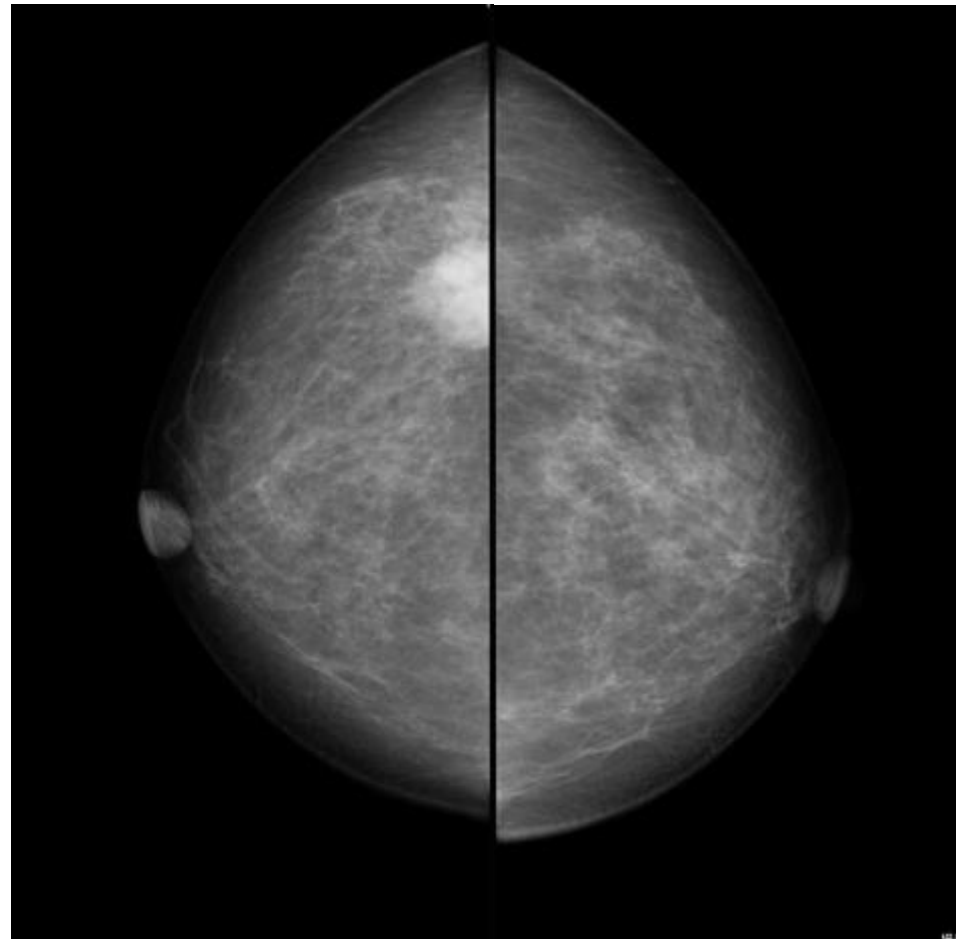
妊娠出産歴： 2妊2産

家族歴： 特記すべきことなし

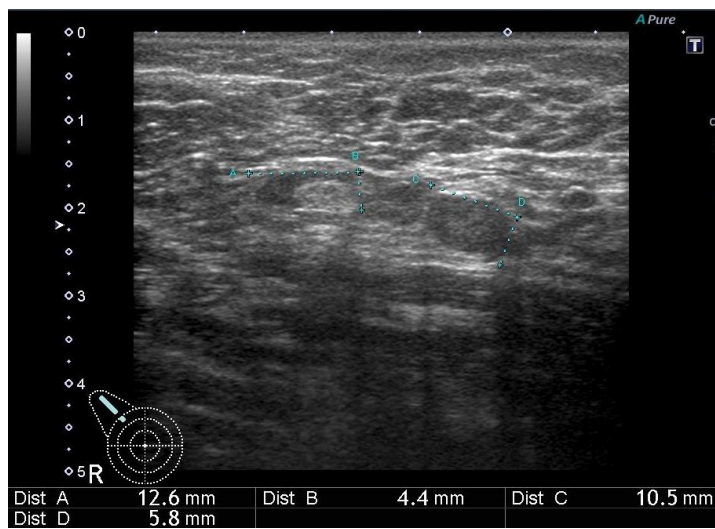
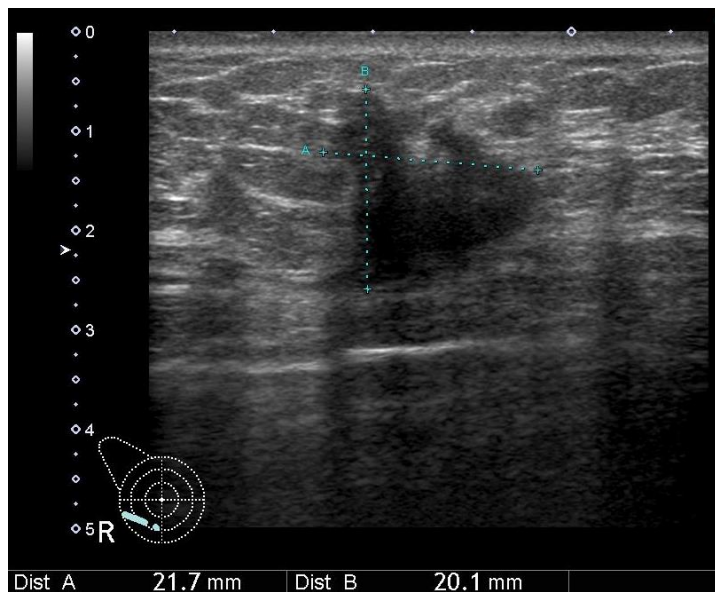


初診時現症：
右乳房8時方向、D領域
NTD3.5cm、腫瘍径2.5x2.4cm
同側腋窩に腫大リンパ節1個を触知

マンモグラフィ画像



乳房超音波画像



胸部造影CT画像



針生検病理診断:

Invasive carcinoma, NST

グレード2

ER陽性(>90%)、PgR陽性(>90%)

HER2 score 1

Ki67 labeling index (以下Ki67) 15%

腋窩リンパ節細胞診:

悪性(Adenocarcinoma)

患者さんの治療に対する希望:

「乳房温存は希望しません。かつての嫌な記憶があるので、抗がん剤治療はなるべくしたくないですが、必要ならば受けます。」

Q1: 初回治療方針は？

手術先行？

術前薬物療法？

術前薬物療法の場合、

投与薬剤・投与回数？

本症例に対し、初回治療として手術を実施

術式：右乳房全切除＋腋窩リンパ節郭清術

切除標本の病理診断：

Invasive carcinoma, NST

グレード2

浸潤径3.0x2.3cm

リンパ節転移陽性[3/14]

ER陽性(>90%)、PgR陽性(30%)

HER2 score 1

Ki67 25%

Q2-1

21遺伝子検査(Oncotype Dx検査)を実施しない場合、術後薬物療法の方針は？
(投与薬剤、投与期間)

Q2-2

もしOncotype DX検査を実施して、Recurrence scoreが16であった場合、術後薬物療法の方針は？(投与薬剤、投与期間)

Q3

放射線治療は行うか、行わないか？
行うとすれば、照射野と照射タイミングは？

症例 2

60歳代 女性

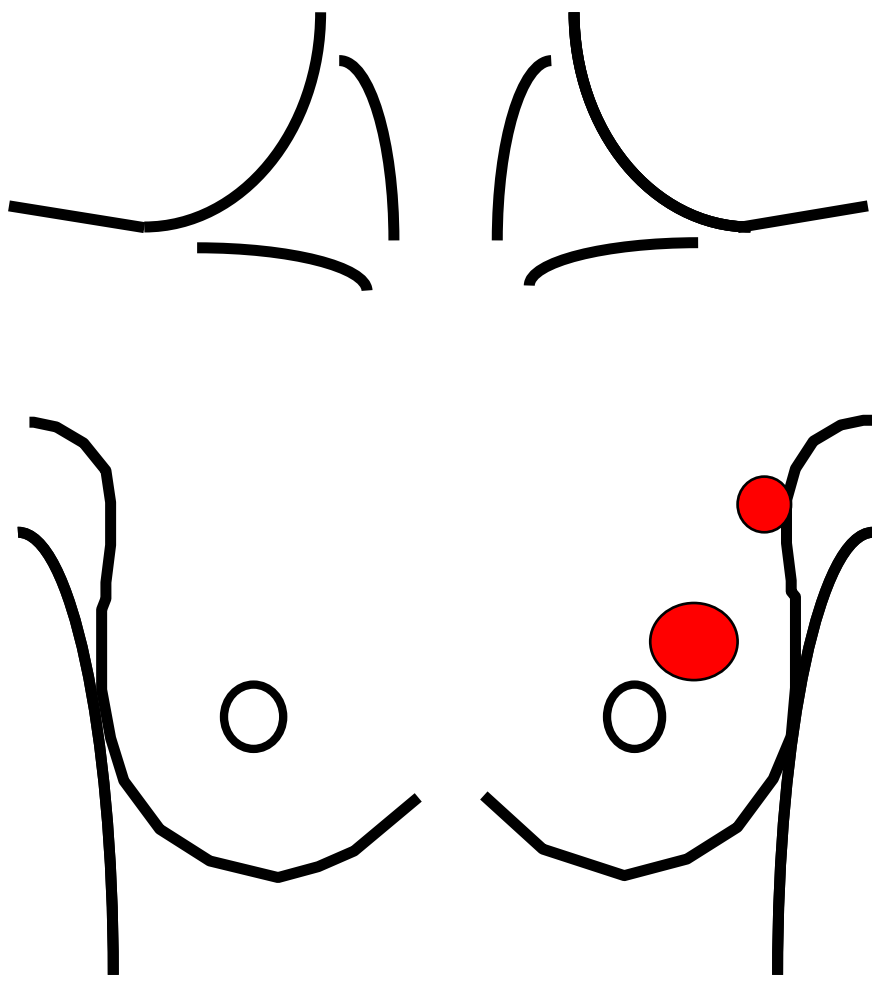
現病歴： 3か月前に左乳房腫瘍を自覚したが、最近になり腫瘍が大きくなったため、前医受診した。前医にて乳がんを疑われ、当院へ紹介受診となった。

既往歴： 20年前に子宮筋腫に対して子宮全摘術を受けた。

併存疾患： 高脂血症

妊娠出産歴： 1妊1産

家族歴： 父親が胃がんで死亡



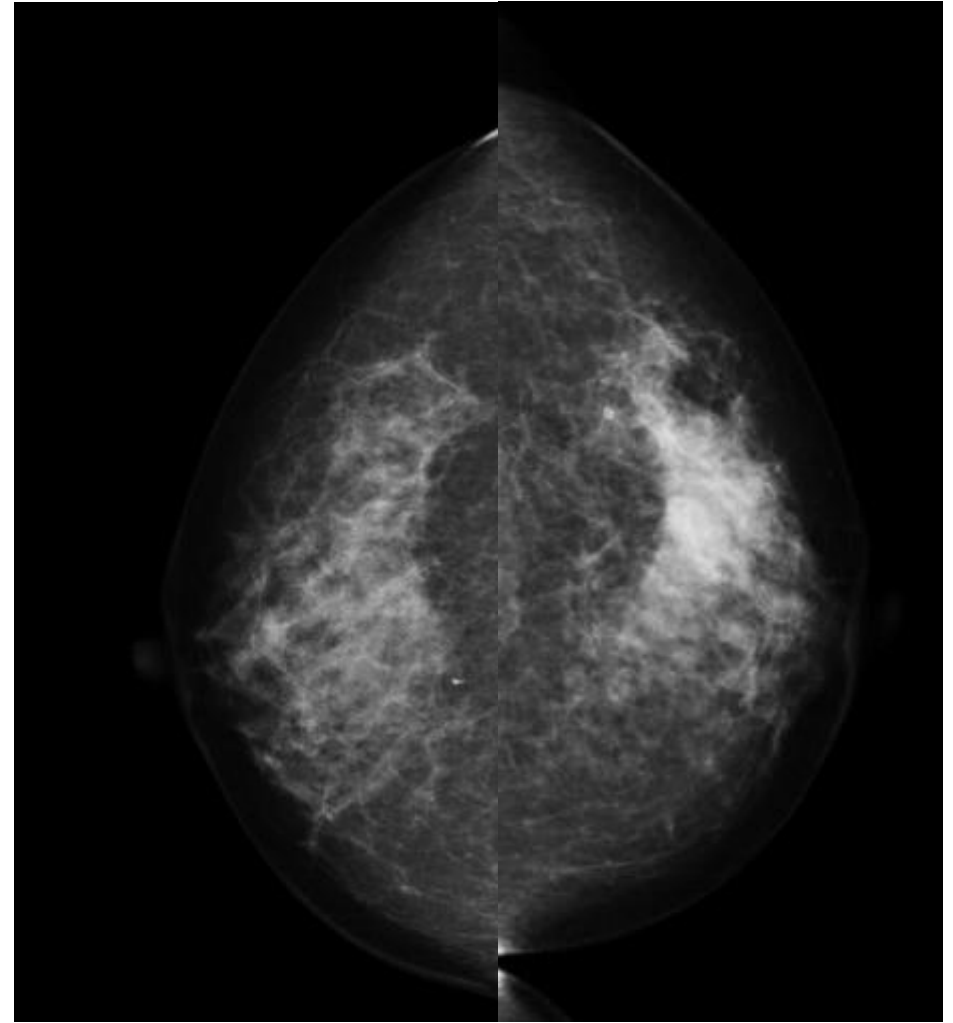
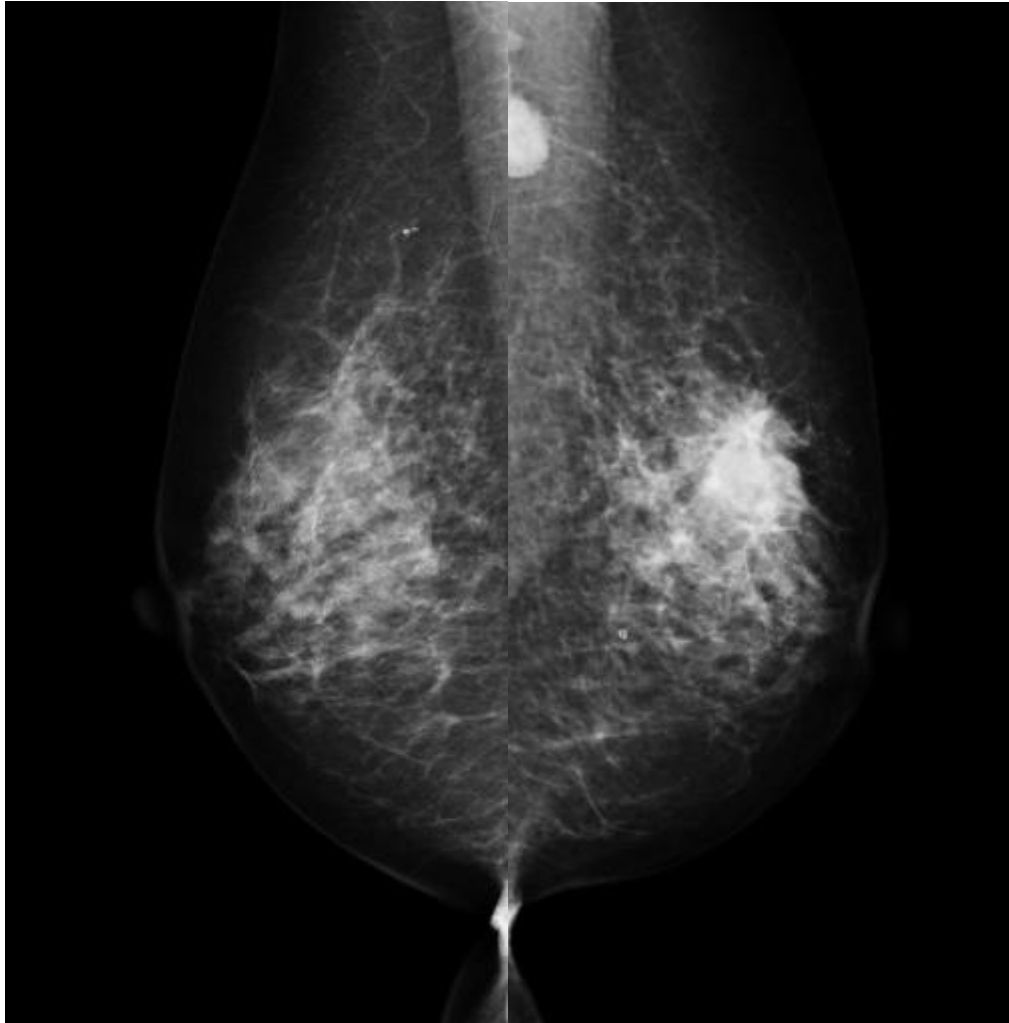
初診時現症:

左乳房1時方向、C領域

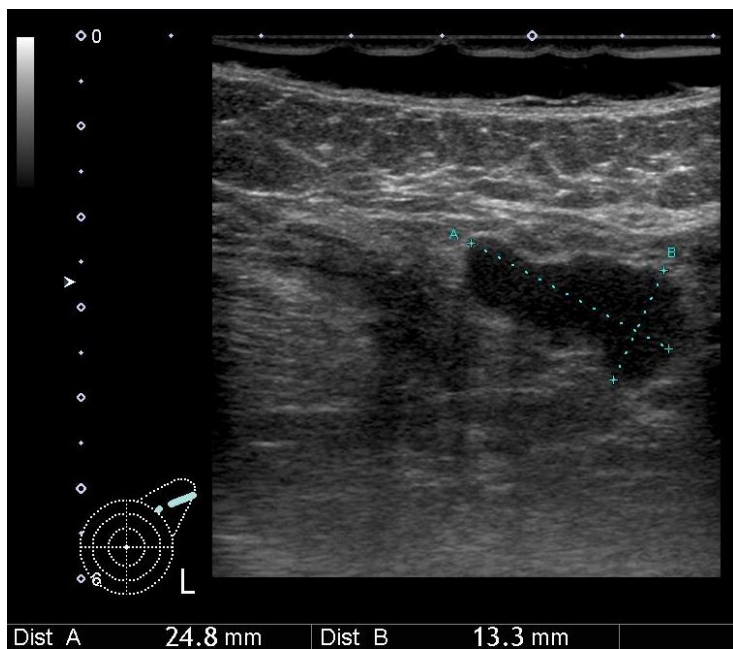
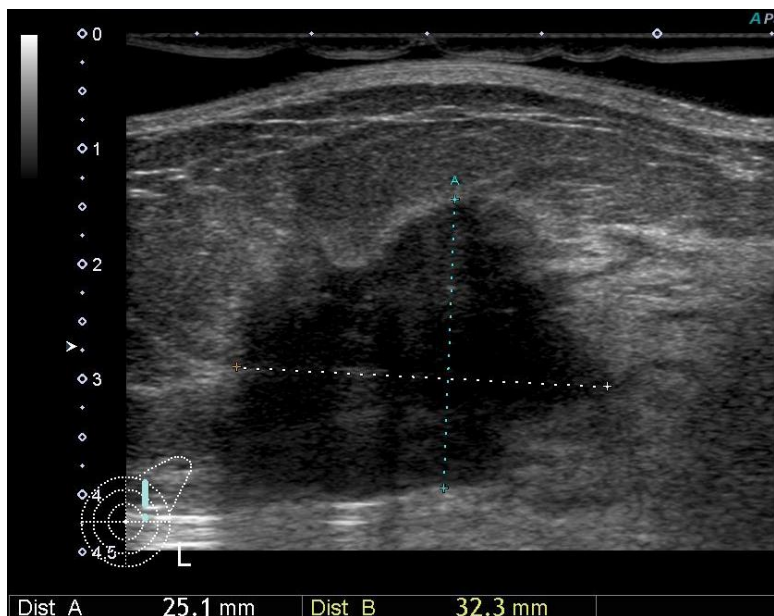
NTD2.0cm、腫瘍径3.4x2.8cm

同側腋窩に腫大リンパ節1個を触知

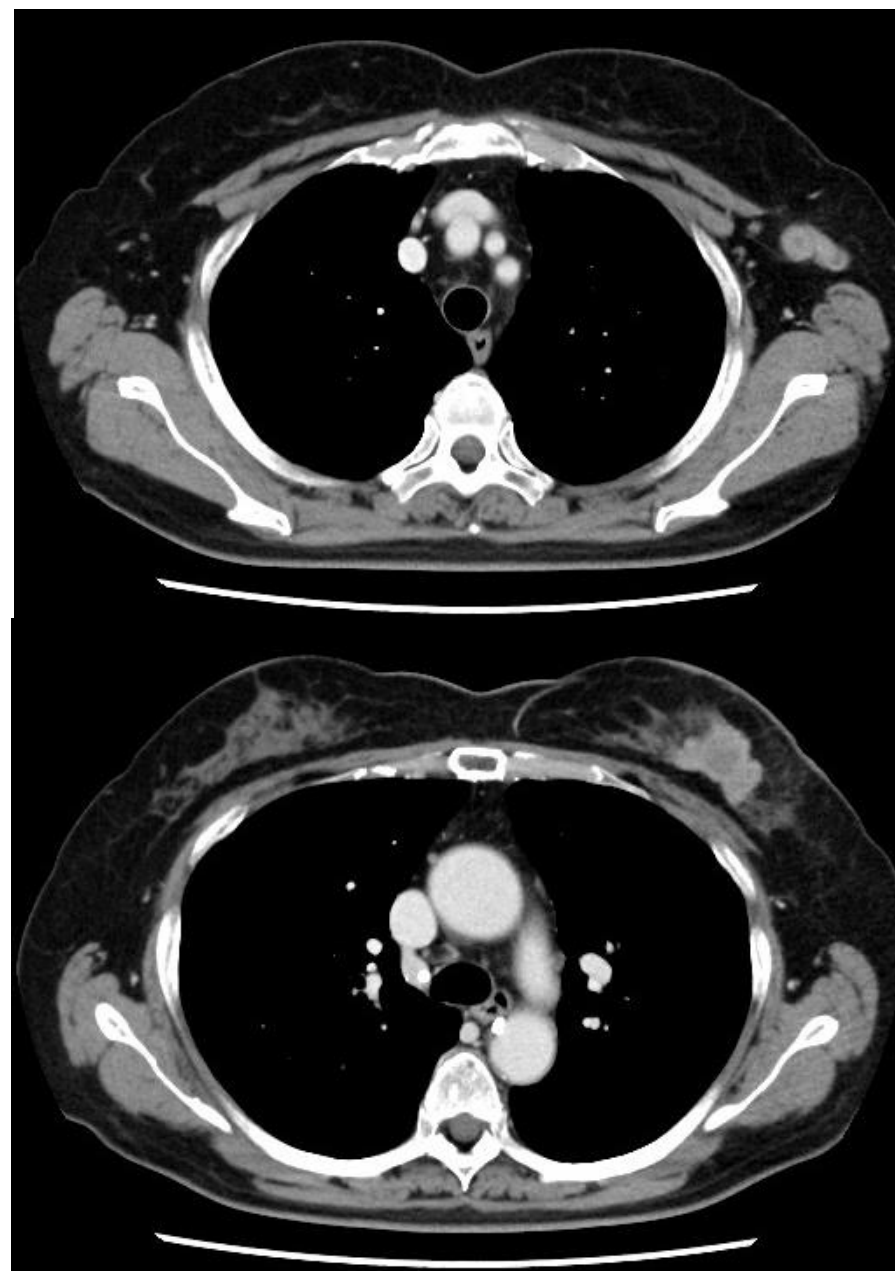
マンモグラフィ画像



乳房超音波画像



胸部造影CT画像



針生検病理診断:

Invasive carcinoma, NST

グレード3

ER陽性(>90%)、PgR陽性(80%)

HER2 score 3

Ki67 40%

腋窩リンパ節細胞診:

悪性(Adenocarcinoma)

患者さんの治療に対する希望:

「乳房温存は希望しません。一番いい治療をしてください。」

Q1: 初回治療方針は？

手術先行？

術前薬物療法？

術前薬物療法の場合、

使用薬剤・投与回数は？

本症例に対し、
術前化学療法および抗HER2療法を施行
臨床的治療効果cPRであった。

手術：左乳房全切除＋腋窩リンパ節郭清術

切除標本の病理診断：

Invasive carcinoma, NST

グレード3

遺残浸潤径0.5x0.5cm

リンパ節転移陽性[1/12]

組織学的治療効果 グレード2a

ER陽性(>90%)、PgR陽性(30%)

HER2 score 3

Ki67 15%

結果を受け、PMRTは予定することにした

Q2

術後薬物療法の方針は？

行う場合、

使用薬剤と投与開始時期ならびに

投与継続期間は？

症例 3

70歳代 女性

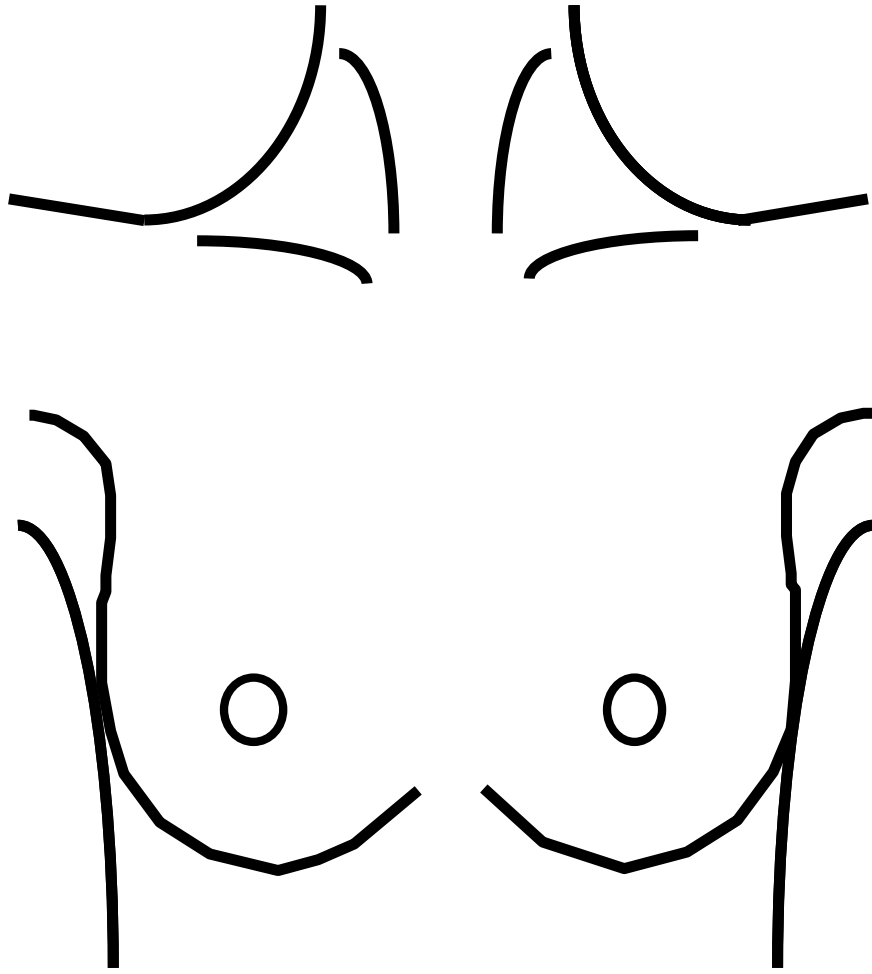
現病歴： 狭心症、心筋梗塞にて前医で冠動脈バイパス術を受けた。
その際に撮影された胸部CTで右乳房に病変が指摘されたとのことで、
前医を退院後に当院へ紹介受診となった。

既往歴： 狭心症、心筋梗塞

併存疾患： 高血圧、高脂血症、気管支喘息があり、アルコールは飲めない(不耐)

妊娠出産歴： 2妊1産

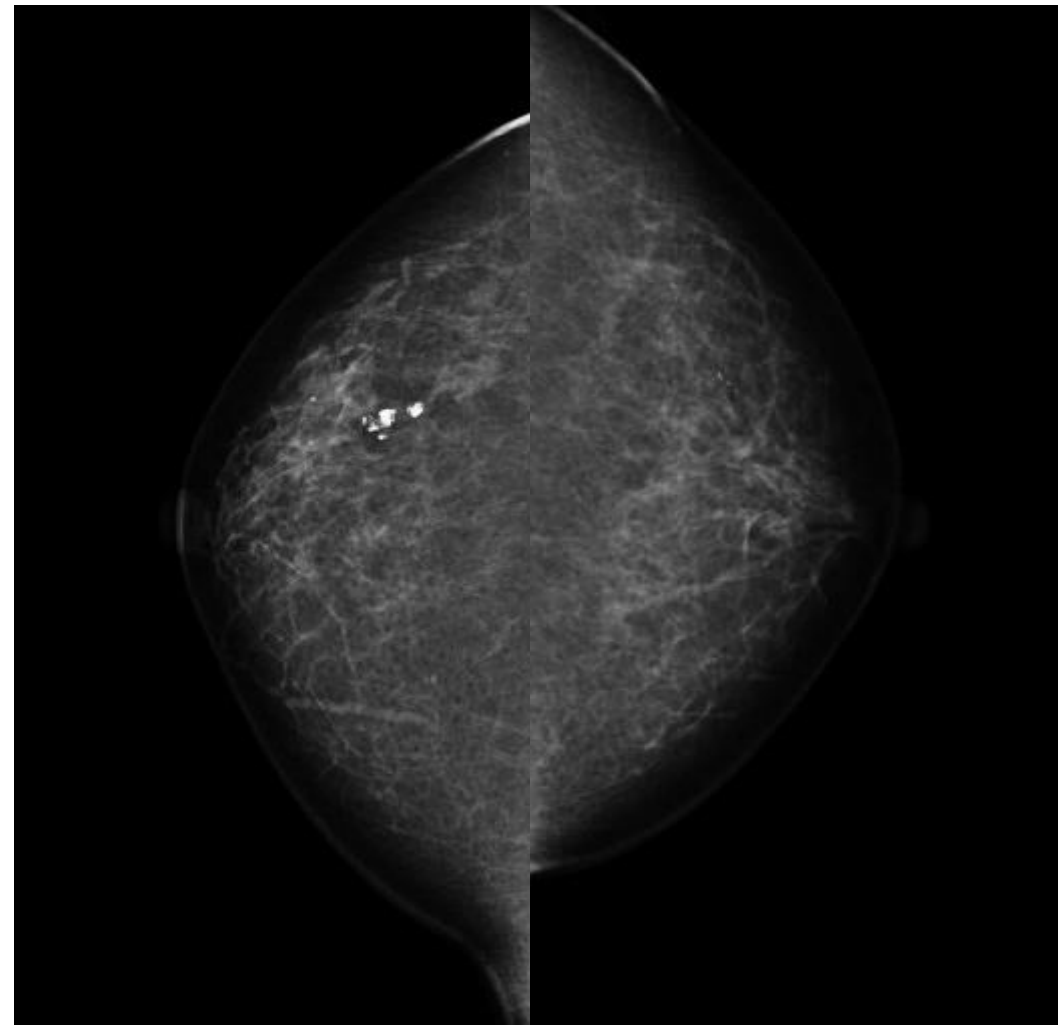
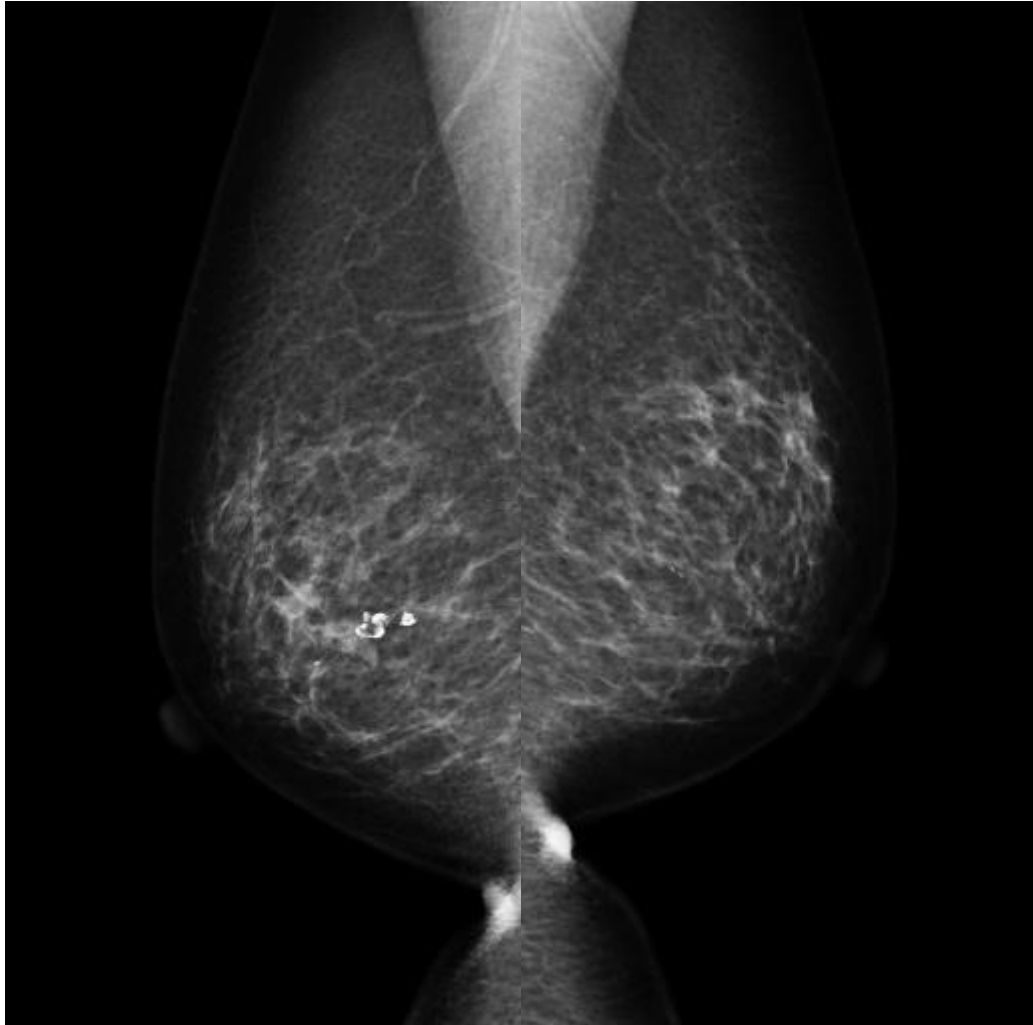
家族歴： 母親が乳がん(70歳で発症)



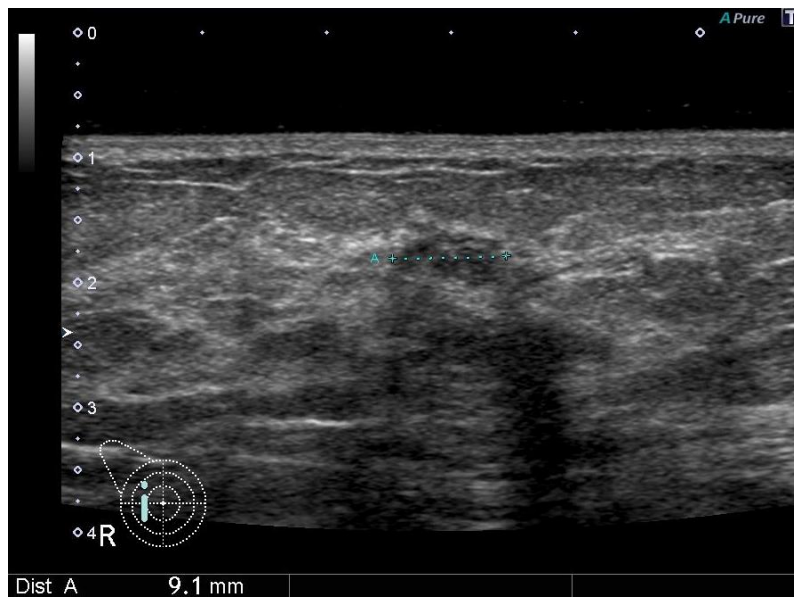
初診時現症：
触診上、両側乳房ならびに両側腋窩に
異常所見は認めなかった。

Performance Statusは1
その後の検査でLVEFは50%であった

マンモグラフィ画像



乳房超音波画像



胸部単純CT画像



針生検病理診断:

Invasive carcinoma with apocrine
differentiation

グレード2

ER陰性(0%)、PgR陰性(0%)

HER2 score 2

HER2-FISH (HER2/CEP17 ratio) 1.1

Ki67 10%

患者さんの治療に対する希望:

「乳房温存を希望します。髪の毛が抜けるのは嫌だし、抗がん剤はなるべくしたくない。」

Q1 治療方針方針は？

手術先行？

薬物療法先行？

薬物療法先行の場合、

使用薬剤・投与回数？

切除標本の病理診断:

Invasive carcinoma with apocrine
differentiation

グレード2

浸潤径0.7x0.6cm

リンパ節転移なし[0/2]

切除断端陰性

ER陰性(0%)、PgR陰性(0%)

HER2 score 1

Ki67 10%

Q2

本症例に対し、初回治療として手術
(右乳房部分切除+センチネルリンパ節生検)
を実施し、切除標本の病理結果が左記のとおり
であった。術後薬物療法の方針は？

薬物療法を行うとしたら、
使用薬剤・投与回数はいくら？